

オウム対策住民協議会

鳥山地域
オウム真理教対策
住民協議会

団体規制法存続・観察処分期間更新署名

皆さんのご協力で44265筆が集まりました

今年4月より開始した、団体規制法存続・観察処分期間更新の署名活動は、未だに盛り上がりたぐさの署名が集まりました。10月9日の事務局会議後、協議会会員も加わり集計をしたところ、当初の目標を突破する44265筆の数に一同歓声が上がりました。署名活動は今回で7回目となりますが、署名活動を開始した4月当初は目標突破の難しさが語られていました。それは、13人の命を奪い5500人以上の負傷者を出した、日本の犯罪史上最も凶悪な地下鉄サリン事件から19年が経過、人々の関心も薄れていることも関係していました。難しい局面ではありましたが、14年目を迎えた住民協議会は、オウム真理教に負けてたまるかと奮起し、大方の予想を覆すべく、街頭署名にイベント会場などでの署名活動と、多くの会員が立ち上がりました。町会の回覧板も、皆さんが署名

により協力しやすいように訴えを掲載するなど、工夫を凝らし知恵も出し合いました。町会・自治会、商店街を始め多くの団体や世田谷住民の皆さんが、住民協議会の訴えに賛同し、ご協力をいただいたことに感謝申し上げます。住民協議会

は、協力していただいた一人一人の署名を携え、11月14日に法務省庁に団体規制法存続・観察処分期間更新の要請行動を予定しております。詳細は次号でお知らせいたします。それにも、今回の署名活動は世田谷区民の良心と力強い協力の輪を感じました。住民協議会も勇気を頂き、新たな活動へのエネルギーとなりました。ありがとうございました。

監視をする場所について

オウム真理教の監視活動は砂利を敷いてある場所が私有地のため立入が出来ません。住民協議会は下図の場所での監視活動をお願いすることにいたしました。尚、監視の形態は以前から告知してきた通り、体調・年齢・気候なども考慮し、監視小屋で行うことも視野に入れてください。



連載 オウム真理教と闘い続ける⑩ 瀬澤直幸さんより

中東の過激派組織「イスラム国」の戦闘に加わろうとした北大生が「私戦の予備・陰謀」の容疑で自宅捜査を受けた、という報道に触れ、当時の有名国・私立大の学生が、自分の生き甲斐、自己実現の充実の道を見極められず、麻原彰晃のオウム真理教に走ってしまった当時の時代背景を思い浮かべてしまいました。大量のオウム真理教信者が鳥山の地に転入してきたのは平成12年の暮れ、町会・自治会が緊急召集され、翌年1月、住民決起集会へと進み、700人が区民センターに集結、その場で住民協議会が発足しました。14年前のことです。最初は驚きと恐怖心が先行したこともあって「オウムは鳥山から出て行け！」でした。が、討議と行動の中で、その誤りに気づき、解散・解体の迫りへと前進させました。以前、私も住民協議会ニュース発刊を手伝いましたが、取材で上九一色村を訪ねた時、美しい富士山の麓を占拠した広大なオウム

真理教のサティアンの跡を見学、案内してくれた竹内精一さんが、膨大な写真・記録を前に、サリンの危険の中で住民をどうまとめ、住民がどう戦ったかを語ってくれたことは忘れません。当時「あの時を忘れない」シリーズを紙面で展開、坂本弁護士一家殺人、松本でのサリン散布や地下鉄サリン事件、公証役場の仮谷清志殺害事件など、オウム真理教が引き起こした凶悪な事件をみんなが再確認していました。今も鳥山に住する「ひかりの輪」の上祐史浩は「私たちはもう決して危険ではない」と書籍や情報機器で喧伝、再び若者を引き込もうと画策しています。対象を大学生だけでなく、高校生にまで手を広げ「哲学勉強会」などと銘打って組織の拡大に躍起です。もう一度「あの時を忘れない」を私たちの一人一人が心の中で思い起こし、カルト集団・オウム真理教解体・解散まで、粘り強く闘いを続けて行きましょう。

オウム真理教問題 講演会

— オウム真理教問題を風化させない —

日時：12月11日(木)
時間：14:30~17:00
場所：北沢区民会館
「北沢タウンホール」

※事前の申し込みは不要です。当日会場へ。手話通訳あり。

講師 清永 聡氏
(NHK報道局社会部デスク)

講師略歴

昭和45年 福岡県生まれ
平成5年 NHK入局
平成14年~18年 社会部司法クラブで松本智津夫被告の死刑判決、死刑確定など取材
平成24年 NHKスペシャル「未解決事件・オウム真理教」を取材制作
平成25年~26年 司法クラブキャップとして平田篤、菊地直子被告の裁判を取材指揮

【お問い合わせ先】世田谷区危機管理室危機管理担当課 電話5432-2314

監視小屋便り

住民協議会は、オウム真理教解散・解体をスローガンに活動を続け今年で14年目になりました。活動の柱である監視活動は現在39の団体の皆さんがローテーションを組みほぼ毎日監視小屋に立ちオウム信者の動向を日誌に記録しています。

〈日誌より抜粋〉

- ・ 甲州街道方面より女性の運転する車で上祐が帰ってきた。(女性2人、男性2人)1階の道場より2階の207号室へ。神棚、マンダラの額の様なもの、ダンボール箱、大型テレビ等々、上祐と信者達が何度も往復して運び入れていた。今までにない無気味な動きで注意、公安も注目していた。(1/21)
- ・ 駐車場に若い女性信者が立ち続けて瞑想を続けている。(1/28)
- ・ 本日は昨日からの大雪で道路状況がひどく、雪かきしないと立ち番ができないので小屋の中から監視をしました。都心でも27cmの大雪で家から30分以上かかりました。(2/9)
- ・ 信者の出入りも寒いせいかな今日はなかった。立合のおまわりさんから今の様子を聞いた。6部屋あった部屋数も減り人数も少なくなり、今では5～6人との事。修行場も無く静かとの事。今日は上祐代表は大阪の説法会に行っている。1日も早く立退いてもらい静かな町に戻してもらいたい。(2/18)
- ・ 監視活動の開始時は公安調査庁の立入検査があった。(3/5)
- ・ 上祐代表は海外に出張中との事で何の動きもありません。(4/18)
- ・ ゴールデンウィークにかけてセミナーがあるとの事で監視側の警察の人達が10人位来ていた。(5/1)
- ・ 今日は上祐不在の為特に変化なし。教団メンバーも地方へ行っているらしく人の気配なし(5/1)
- ・ 前の道を自転車で通りかかった男性が、私たちを見かけ「オ

- ウムの信者はまだ居るの？」と問いかけがあり状況を説明したところ「大変だね」と言葉をかけて下さいました。(5/28)
- ・ 今夜は横浜で説法がある由。雨がひどく何の動きも無い。(6/7)
- ・ 以前と比べあまりに出入りがなく静かなので警視庁の方に聞いたら現在6人きり住んでいない。去年は16人位居た。現在は1階を使用する事はなく101号室で時々勉強会を開いている。今日は上祐は不在で信者は3人だから動きはないとのこと。この現状をみて協議会の運動の成果を評価すると共に監視活動の方法も考える時かと思った。(7/23)
- ・ 上祐氏は北海道へ研修会の為、信者達の出入りはありませんでした。(9/23)
- ・ 連日の猛暑、急激に天候が変化中での監視活動です。体調面で警官の方がとても心配されていました。(高齢の方も監視に来られるので)(8/4)
- ・ 上祐氏は上高地でセミナーの為外出中。現在建物内には2～3名居るが出入りが無い。監視小屋にいることを警察から勧められた。(9/15)

烏山施設に居住しているオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)は、上祐を代表とするひかりの輪だけとなり、日常の人の出入りも少なく静かな様子です。しかし日誌にも度々記載されていますが、上祐は信者達と地方に出向いてセミナーを開催し、布教活動を続けています。

烏山の施設に表立った動きはなくなりましたが、教団の体質が変わったとは思えません。今一度気を引き締め、オウム真理教解散・解体に向けて地域住民の皆さんと共に活動を続けていきます。

蘆花まつりでがんばりました

10月最後の日曜日となる26日、第2回烏山地域蘆花まつりが開催されました。晴天の中、都立蘆花公園の中には家族連れなど、大勢の人々であふれていました。芝生の上にシートを広げて、家族団欒を楽しむ人たち、のんびり昼寝をする人、まるで野外ピクニックを楽しむように、アットホームな雰囲気は他のおまつりでは見られない光景です。私たち住民協議会のメンバーは、都立公園での署名・募金活動は禁止されていると直前に分かり、今回は活動のPRのための協議会ニュースの配布と、小さなリサイクルバザーを行いました。活動資金のための販売ですとの呼びかけに、

立ち寄って100円の物を1000円分小物を探して買ってくれる人、200円の買物に1000円置いていってくれる人、思わぬ皆さまの好意に勇気づけられ、励まされた一日でした。来年はおまつりそのものに参加しながら、活動資金をと考えています。ご協力ありがとうございました。



住民協議会活動報告

- 10月15日(水) 住民協議会
- 10月18日(土) 第23回自由広場で募金活動
- 10月26日(日) 第2回烏山地域蘆花まつりでPR活動
- 10月27日(月) 住民協議会ニュース140号初校正
- 11月1日(土) 第9回烏山コミュニティーまつりで募

- 金活動
- 11月2日(日) 上北沢区民センター文化祭で募金活動
- 11月4日(火) 住民協議会ニュース140号再校正
- 11月8日(土) 第29回抗議デモ
- 11月10日(月) 住民協議会ニュース140号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。